

令和4年9月27日

水戸市長 高橋 靖 様

水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議

座長 佐川 泰弘

水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業の評価等について（意見）

当会議におきまして、令和3年度に実施した水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）に位置付けた事業及び地方創生関係交付金事業、地方創生応援税制活用事業の評価について、慎重に審議いたしました。

それを踏まえ、今後の事業推進に当たっての意見を下記のように提出いたしますので、貴職におかれましては、本意見を十分に考慮し、総合戦略を推進されるよう要望いたします。

記

1 総合戦略の評価及び進行管理について

- (1) 茨城県全体としては、若い女性の流出が課題となっている。コロナ禍により人流に変化が生じていることから、人口動態について、男女別の分析にも取り組み、丁寧に施策の展開とフォローアップを図られたい。
- (2) まち・ひと・しごと創生の観点から、子育て支援等の様々な分野において、他市と比較し、水戸市が住みやすいと実感してもらえる環境整備を急ぎ進められたい。
- (3) 参考資料（令和3年度評価一覧）について、個別事業が市の重点的な取組かどうかや、本戦略の基本目標とどう関連しているのかなど分かりにくいいため、表現方法を検討されたい。
- (4) 人口動態の調査において、転入者の属性分析にも取り込まれることを検討されたい。

2 各事業について

- (1) 新市民会館の開館に伴い、来場者による周辺道路における渋滞や事故などが懸念されるため、しっかりと対策を講じられたい。
- (2) 創業支援事業計画推進事業等において、創業者の属性分析を進められたい。また、水戸市は創業しやすい環境であることのPRにも取り込まれたい。
- (3) 子育てしやすい環境の充実に向け、不足する保育士の確保に努めながら、更なる保育の質の向上に取り組まれたい。
- (4) 子どもの発達支援の充実に向け、小中学校における通級教室のさらなる拡充など、利用しやすい環境づくりに努められたい。
- (5) 不登校の児童に対する支援について、その取組を広くPRすることで、子育てしやすい環境づくりを図られたい。

- (6) コロナ禍における生活環境の変化による子育て家庭の孤立といった、顕在化しにくい問題への対応も含め、よりきめ細かな子育て支援を検討されたい。
- (7) 移住支援金事業について、本来の趣旨である県内及び市内企業への就労を要件とした方への支給ではなく、テレワークの方への支給が多くなっている。その要因が制度や運用方法にあるのか、分析に取り組みたい。また、支援金対象法人の拡充など、取組の改善にも努められたい。
- (8) 新たな移住・定住促進サイトについては、ターゲット及びコンセプトを明確にした上で、ワンストップのサイトとして構築されたい。また、その中において、水戸市の魅力のPRとして、UIJターンのパターンごとに移住者の声を紹介することも検討されたい。
- (9) サイクルツーリズムの推進について、水戸市の魅力を体感してもらう取組として、水戸市への移住を検討している方などを対象に、市独自のサイクリングツアーの開催など検討されたい。
- (10) まちなかのにぎわい創出に向け、関係各課及び関係団体が連携し、新市民会館やアダストリアみとアリーナへのコンベンション誘致やイベント時の人の回遊について、交流人口の増加に資する取組を一体的・整合的に進められたい。
- (11) 地域のデジタル化の推進に当たっては、デジタル田園都市国家構想推進交付金の活用も見据えるとともに、デジタル化の観点からの施策の見直しや市内企業などとの連携を図りながら、スピード感を持って新たなプロジェクトづくりに取り組みたい。

3 参考：水戸市第7次総合計画の策定について

- (1) 水戸市からつくば市への転出超過が多いことから、施策の比較調査を行うなど、原因の分析に取り組みたい。また、その結果を踏まえ、水戸市ならではのストーリー性のある施策の立案に取り組みたい。
- (2) 水戸市のまちづくりに多くの若者と女性の声を生かすための手法を再検討し、総合計画策定時から参画を得られるように取り組みたい。